


VMware vSphere Replication 8.1 リリース ノート

 |  フィードバック

 共有

 更新日 2021年08月30日

VMware vSphere Replication 8.1.0.4 | 2018 年 8 月 24 日 | ビルド 9466424 | [ダウンロード](#)

VMware vSphere Replication 8.1.0.3 | 2018 年 6 月 12 日 | ビルド 8744176 | [ダウンロード](#)

VMware vSphere Replication 8.1.0.2 | 2018 年 5 月 18 日 | ビルド 8539865 | [ダウンロード](#)

VMware vSphere Replication 8.1.0.1 | 2018 年 4 月 20 日 | ビルド 8310693 | [ダウンロード](#)

注：VMware vSphere Replication 8.1.0.1 | 2018 年 4 月 20 日 | ビルド 8310693 は、以前にリリースされた VMware vSphere Replication 8.1 | 2018 年 4 月 17 日 | ビルド 8254953 を置き換えられます

これらのリリース ノートへの追加や更新を確認してください。

vSphere Replication 8.1.0.x パッチ リリースの詳細については、対応するセクションを参照してください。

- [vSphere Replication 8.1.0.4 Express Patch Release](#)
- [vSphere Replication 8.1.0.3 Express Patch Release](#)
- [vSphere Replication 8.1.0.2 Express Patch Release](#)
- [vSphere Replication 8.1.0.1 Express Patch Release](#)

リリース ノートの概要

これらのリリース ノートの内容は次のとおりです。

- [ローカライズ](#)
- [新機能](#)
- [製品のドキュメント](#)
- [インストール手順](#)
- [vSphere Replication のアップグレード](#)
- [vSphere Replication の操作上の制限](#)
- [オープン ソースのコンポーネント](#)
- [注意と制限](#)
- [利用可能なパッチ リリース](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

ローカライズ

VMware vSphere Replication 8.1 は、次の言語で使用可能です。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- 韓国語
- スペイン語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語

新機能

VMware vSphere Replication 8.1 では、次の新機能が提供されます。

- オンプレミス環境および VMware Cloud on AWS に対するネイティブなハイパーバイザーベース レプリケーション ソリューションの統合。
- HTML 5 ユーザー インターフェイスの簡素化。"新しい HTML 5 ユーザー インターフェイスの導入によって、デプロイや使用方法が簡素化され、効率的なワークフローを実現できるようになったため、ユーザーの使用環境が全体的に強化されました。例として、レプリケーションと保護の統合、サイトのペアリングなどが挙げられます。

• Photon OS の導入により、セキュリティと管理性の向上、および操作の簡素化。vSphere Replication 仮想アプリケーションは、Photon OS 上で実行されます。

- 複数の VMware vSphere オンプレミス バージョンのサポート。vSphere Replication 8.1 は VMware vSphere 6.0 Update 3 以降（6.7 を含む）と互換性があります。VMware vSphere の各リリースとの相互運用性については、「[vSphere Replication 8.1 互換性マトリックス](#)」を参照してください。

注：vSphere 6.7 の機能の詳細については、[vSphere 6.7 のドキュメント](#)を参照してください。

製品のドキュメント

現在のリリース ノートに加え、使用できる vSphere Replication 8.1 のドキュメント セットには、次の配布ファイルが含まれています。

- [vSphere Replication 8.1 ドキュメント センター](#)
- [vSphere Replication 8.1 互換性マトリックス](#)

インストール手順

vSphere Replication の **.iso** イメージをダウンロードしてマウントします。vSphere Replication アプライアンスは、vSphere Web Client または vSphere Client の OVF デプロイ ウィザードを使用してデプロイできます。**.iso** イメージの **\bin** ディレクトリに移動し、対応する OVF ファイルを使用します。

- vSphere_Replication_OVF10.ovf**：このファイルは、vSphere Replication Management Server、vSphere Replication サーバを含むすべての vSphere Replication コンポーネントのインストールに使用します。
- vSphere_Replication_AddOn_OVF10.ovf**：このファイルは、オプションの vSphere Replication サーバの追加インストールに使用します。

インストールの詳細については、「[vSphere Replication ドキュメント センター](#)」の「vSphere Replication のインストール」のセクションを参照してください。

注：vCenter Server から vCenter Server へのレプリケーションの場合は、ソース サイトとターゲット サイトの vSphere Replication Management サーバのバージョンが一致している必要があります。

vSphere Replication のアップグレード

vSphere Replication 6.1.2 または 6.5.1 を vSphere Replication 8.1 にアップグレードする唯一の方法は、ダウンロード可能な ISO イメージを使用する方法です。vSphere Replication アプライアンスの VAMI から vSphere Update Manager または公式の VMware Update Repository を使用して、vSphere Replication をバージョン 6.1.2 または 6.5.1 からバージョン 8.1 にアップグレードすることはできません。サポート対象バージョンの詳細については、「[互換性マトリックス](#)」を参照してください。

重要: アップグレードを開始する前に、vSphere Replication アプライアンスに OVF 環境（コンテキスト）があることを確認します。「[Checking and Restoring the OVF Context of the vSphere Replication Appliance \(2106709\)](#)」を参照してください。

「既知の問題」の「[アップグレード](#)」と「[全般](#)」のセクションを参照したことを確認してください。

必ず、vSphere Replication 8.1 の新しい OVF を最初にデプロイしてください。新しくデプロイした vSphere Replication アプライアンスのコンソールで、**[アップグレードオプション]**を選択していることを確認します。

vSphere Replication 8.1 へのアップグレード手順については、「[その他の vSphere Replication Servers のアップグレード](#)」および「[vSphere Replication アプライアンスのアップグレード](#)」を参照してください。

vSphere Replication の操作上の制限

vSphere Replication 8.1 の操作上の制限については、Vmware のナレッジベースの記事を参照してください。「[Operational Limits for vSphere Replication 6.x and 8.x \(KB 2102453\)](#)」を参照してください。

注意：vSphere Replication では、vSphere Replication Management サーバ 1 台につき 500 台を超えるレプリケーションをサポートするために、追加の構成が必要です。「[Operational Limits for vSphere Replication 6.x and 8.x](#)」および「[Configuring Upgraded vSphere Replication Appliances to Support up to 2000 Replications](#)」を参照してください。

オープン ソースのコンポーネント

vSphere Replication 8.1 で配布されるオープン ソース ソフトウェア コンポーネントに適用される著作権に関する記述とライセンスは、「[vSphere Replication オープン ソースの公開](#)」ページにあります。

vSphere Replication 8.1 の注意と制限

仮想マシンのレプリケーションを正常に完了するには、レプリケーションを開始する前に、仮想インフラストラクチャが一定の制限を満たしていることを確認する必要があります。

- vSphere Replication 8.1 では、vCenter Server 6.0 Update 3、vCenter Server 6.5、vCenter Server 6.5 Update1、または vCenter Server 6.7 が必要であり、これらを完全にサポートします。
- Platform Services Controller をカスタム ポートを使用してインストールすると、vSphere Replication アプライアンスの設定ができません。
- vSphere Replication では、暗号化された仮想マシンのレプリケーションを設定できません。
- 5 分間の RPO は、臨時 VVOL データストア上の仮想マシンに、サポート上限である 50 台まで適用されます。
- vSphere Replication では、Virtual Volumes 上での VSS 静止をサポートしていません。
- vSphere Replication は、今回のリリースの vmdk ファイルを共有する仮想マシンをレプリケートすることはできません。
- vSphere Replication では、ソース サイトとターゲット サイトの両方で vSphere APIs for IO Filtering をサポートしていません。IO フィルタを含む仮想マシン ストレージ ポリシーが割り当てられた仮想マシンをレプリケートすることも、そのようなポリシーをレプリケーション ターゲット仮想マシンに割り当てることもできません。レプリケーション用に仮想マシンを構成する前に、割り当てられた仮想マシン ストレージ ポリシーに IO フィルタが含まれていないことを確認します。IO フィルタが含まれている仮想マシン ストレージ ポリシーを、すでにレプリケーション用に構成されている仮想マシンに割り当てないでください。
- 複数の vSphere Replication アプライアンスをデプロイした場合、起動画面に警告が表示されます。ユーザーは、続行してすべてのレプリケーションを再構成するか、旧アプライアンスの妨げにならないように新しいアプライアンスをシャットダウンする必要があります。複数の vSphere Replication サーバをデプロイした場合、この状況は発生しません。
- 各 vSphere Replication Management Server で管理できるレプリケートされた仮想マシンは最大 2000 台です。「[Configuring Upgraded vSphere Replication Appliances to Support up to 2000 Replications \(KB 2102463\)](#)」および「[Requirements to the Environment...\(KB 2107869\)](#)」を参照してください。
- 2032 GB より大きなディスクがレプリケートされた仮想マシンを ESXi 5.1 以前のホストに移動する場合、vSphere Replication は、仮想マシンをレプリケートまたはパワーオンできません。
- vSphere Replication は、62 TB の最大ディスク容量をサポートします。62 TB を超えるディスクのある仮想マシンでレプリケーションを有効にしようとすると、その仮想マシンではレプリケーション操作は実行されず、パワーオンできなくなります。
- vSphere Replication は、2 TB を超えるディスクではより大きいブロックを追跡します。2 TB を超えるディスクのレプリケーション パフォーマンスは、同じワークロードの 2 TB 未満のディスクのレプリケーション パフォーマンスとは異なる可能性があります。これは、変更された特定のブロックに対してネットワーク上で通信されるディスクの量に依存します。
- vSphere Replication では、vCenter Server 5.5 でサポートされるデータベースとして DB2 のサポートが停止されたことに伴い、vSphere Replication データベースとして IBM DB2 はサポートされなくなりました。外部 vSphere Replication データベースとして DB2 を使用している場合は、サポートされるデータベースにデータを移行する方法について VMware サポートにお問い合わせください。
- vSphere Replication は vSphere Replication アプライアンスでの VMware Tools パッケージのアップグレードをサポートしません。
- vSphere Replication は、仮想互換モードで RDM のレプリケーションをサポートします。物理互換モードで RDM にレプリケーションを構成することはできません。
- vSphere Replication は、ターゲット サイトの仮想マシンのスナップショットの階層をレプリケートしません。
- パワーオフされた仮想マシンにレプリケーションを構成できます。ただし、実際のレプリケーション トラフィックは仮想マシンがパワーオンされたときに開始されます。
- レプリケーション サイトで Storage DRS を使用する場合は、リソースを消費するホスト間の移動（ホストとデータストア両方の変更）が Storage DRS で実行されないように、同種のホストとデータストア接続を設定しているか確認します。
- クラウドへのレプリケーションの場合、シード vApp は1つのレプリケーションにしか使用できません。
- 5 分間の RPO を使用するには、VSAN の場合は ESXi 6.0 以降、その他のサポート対象データストアの場合は ESXi 6.5 以降のソース ホストが必要です。
- vSphere Replication でネットワーク分離機能を使用するには、ホストが ESXi 6.0 以降であることが必要です。

サポートされるブラウザのバージョン

vSphere Web Client および vSphere Client でサポートされるブラウザのバージョンについては、使用している vSphere Web Client または vSphere Client のドキュメントを参照してください。

利用可能なパッチ リリース

vSphere Replication 8.1.0.4 Express Patch Release

リリース日：2018 年 8 月 24 日 | ビルド 9466424

vSphere Replication 8.1.0.4 Express Patch Release | 2018 年 8 月 24 日 | ビルド 9466424 では、VMware Cloud on AWS SDDC バージョン 1.5 がサポートされ、バグが修正されています（[解決した問題](#)セクションを参照）。

インストールとアップグレードに関する注記

vSphere Replication 8.1.0.1、8.1.0.2 または 8.1.0.3 を実行している場合は、vSphere Replication 8.1.0.4 にアップデートします。vSphere Replication のアップグレード手順については、『*vSphere Replication 8.1 の管理*』の「[vSphere Replication のアップグレード](#)」を参照してください。

vSphere Replication 8.1.0.3 Express Patch Release

vSphere Replication 8.1.0.3 Express Patch Release | 2018 年 6 月 12 日 | ビルド 8744176 では、バグを修正しています。

インストールとアップグレードに関する注記

vSphere Replication 8.1.0.1 または 8.1.0.2 を実行している場合は、vSphere Replication 8.1.0.3 にアップデートします。vSphere Replication のアップグレード手順については、『*vSphere Replication 8.1 の管理*』の「[vSphere Replication のアップグレード](#)」を参照してください。

vSphere Replication 8.1.0.2 Express Patch Release

2018 年 5 月 18 日リリース | ビルド 8539865

vSphere Replication 8.1.0.2 Express Patch Release | 2018 年 5 月 18 日 | ビルド 8539865 はダウンロード可能な ISO イメージの「vSphere_Replication_Migrate_AddOn_OVF10」ファイルに含まれない問題を解決します。

インストールとアップグレードに関する注記

vSphere Replication 8.1 または 8.1.0.1 を実行している場合は、vSphere Replication 8.1.0.2 にアップデートします。vSphere Replication のアップグレード手順については、『*vSphere Replication 8.1 の管理*』の「[vSphere Replication のアップグレード](#)」を参照してください。

vSphere Replication 8.1.0.1 Express Patch Release

2018 年 4 月 20 日リリース | ビルド 8310693

vSphere Replication 8.1.0.1 Express Patch Release | 2018 年 4 月 20 日 | ビルド 8310693 は、以前にリリースされた VMware vSphere Replication 8.1 | 2018 年 4 月 17 日 | ビルド 8254953 を置き換えられます

インストールとアップグレードに関する注記

vSphere Replication 8.1 を実行している場合は、vSphere Replication 8.1.0.1 にアップデートします。vSphere Replication のアップグレード手順については、『*vSphere Replication 8.1 の管理*』の「[vSphere Replication のアップグレード](#)」を参照してください。

解決した問題

- vCenter Server のインベントリのタグ カテゴリが適切にフォーマットされていない場合、vSphere Replication Management Server アプライアンスでスレッドが不足することがある**

vCenter Server のインベントリに、urn:vim25 プレフィックスのない関連付け可能なタイプを含む、適切にフォーマットされていないタグ カテゴリがあると、vSphere Replication Management Server は稼動を停止します。新規にレプリケーションを構成することはできません。既存のレプリケーションは稼動を続けますが、リカバリされません。

この問題は解決されています。
- レプリケーション反転の設定時、ターゲット データストアを選択していても、データストアの選択を要求するメッセージが表示されるため、操作を続行できない**

単一のデータストアが低速度のネットワーク上のターゲット サイトにあると、競合状態の発生により、必要な仮想マシン データの提供前にデータストアの検証とシードのルックアップが発生します。これにより、ページのロジックが破損してデータが無効な状態となり、検証に失敗します。

この問題は解決されています。
- hbrsrv サービスの起動に失敗し、システム ログ ファイルに破損エラーが記録される**

vSphere Replication サービスが開始できるスレッド数の制限に達したため、追加タスクを実行するためのスレッドを作成できません。vSphere Replication の起動に失敗し、`/var/log/messages` に「**Error in `/usr/bin/hbrsrv-bin': double free or corruption (out)**」と記録されます。

この問題は修正されました。
- ターゲット サイトに複数の vCenter Server インスタンスがあり、これらのインスタンスが、vSphere Replication 6.5 または vSphere Replication 8.0 がインストールされている Platform Services Controller で実行されている場合、レプリケーションの設定に失敗する可能性がある**

ソース サイトが含まれるスタンドアローン Platform Services Controller (PSC) に単一の vCenter Server がインストールされているとします。また、ターゲット サイトが含まれるスタンドアローン PSC に複数の vCenter Server インスタンスがインストールされていて、すべてのインスタンスに vSphere Replication がインストールされているとします。この構成において、ソース サイトからターゲット サイトへのレプリケーションを構成しようとする、レプリケーションが失敗する可能性があります。ユーザーがログインしているリモート vCenter Server が、PSC で最初に登録された vCenter Server の場合は、レプリケーションが成功します。それ以外の場合は失敗します。

この問題は修正されました。
- 選択したターゲット データストアがデフォルトのデータストア ポリシーに準拠していない場合に、vSphere Replication のユーザー インターフェイスから警告が表示されない**

レプリケーション用の仮想マシンを構成する際に、[ターゲットの場所] ページにデフォルトのデータストア ポリシーが、事前選択済みの仮想マシンのスト

この問題は修正されました。

既知の問題

既知の問題は、次のようにグループ化されています。

- アップグレード
- 全般
- vCenter Server へのレプリケーション
- クラウドでのレプリケーション

アップグレード

- vSphere Replication バージョン 6.1 または 6.5 から vSphere Replication 8.1 へのアップグレードがエラーで失敗する

vSphere Replication バージョン 6.1 または 6.5 から vSphere Replication 8.1 へのアップグレードを実行すると、次のエラーが発生してアップグレードが失敗します。

Failure during upgrade procedure at Upgrade Services phase（サービスのアップグレード フェーズでアップグレード手順の実行中にエラーが発生しました）：
java.io。例外: inputStream が閉じています

このエラーは、sshd_config ファイルにエラーがあることが原因で発生している可能性があります。

回避策：

- vSphere Replication 6.1 または 6.5 アプライアンスに対して SSH 接続を確立します。
- /Etc/ssh/ に移動します。
- sshd_config をテキストエディタで開き、値 /usr/lib64/ssh/ を /usr/lib/ssh/ に変更し、ファイルを保存します。
- コマンド service sshd restart を使用して、SSH サービスを再開します。
- アップグレードを再試行します。

- 外部のデータベースを使用する vSphere Replication をバージョン 8.1 にアップグレードすると vSphere Replication 管理サービスの開始に失敗することがある

vSphere Replication が外部のデータベースを使用する場合に vSphere Replication をバージョン 8.1 にアップグレードすると、アップグレードは正常に完了します。そして、サービスを VAMI から再起動すると、データベースはデフォルトの組み込みデータベースに戻り vSphere Replication 管理サービスの開始に失敗します。

回避策：新しい vSphere Replication 管理サーバの Hms-configuration.xml ファイルにある外部データベース プロパティを手動で更新します。

- 新しい vSphere Replication 管理サーバのアプライアンス コンソールで、root ユーザーとしてログインします。
- /opt/vmware/hms/conf/hms-configuration.xml を開き、javax-persistence-database、javax-persistence-jdbc-url、hms-db-user、および hms-db-password の値を編集し、/opt/vmware/upgrade/oldvbr/hms-configuration.xml の値と一致するようにします。
- service hms restart を実行します。

注：これ以降、VAMI からこのサービスを再起動すると、デフォルトの組み込みデータベースに戻ります。

- VCTA をアップグレードするときに、IPv6 環境で vSphere Replication Management Server をバージョン 8.1 にアップグレードできない

アップグレード コンソールのユーザー インターフェイスに次のエラーが表示されます。

Failure during upgrade procedure at Upgrade Services phase（サービスのアップグレード フェーズでアップグレード手順の実行中にエラーが発生しました）：No such file（該当するファイルはありません）

回避策：[無視] オプションを選択して、アップグレードを続行します。

- 自動生成された証明書を使用して vSphere Replication Management Server をバージョン 8.1 にアップグレードした後に、Site Recovery ユーザー インターフェイスにログインすると、証明書に関する問題が発生する

Site Recovery ユーザー インターフェイスのログ ファイルに、次の情報が記録されます。Caused by: javax.net.ssl.SSLException: Certificate for <HMS.FQDN> doesn't match common name of the certificate subject: <HMS.IP>. vSphere Replication Management Server は完全修飾ドメイン名を使用してルックアップ サービスに登録されていますが、SSL 証明書が IP アドレスを使用するため、不一致が発生します。

回避策：

- vSphere Replication Management Server のアップグレード後に、vSphere Replication Management Server の VAMI にログインし、新しい SSL 証明書を生成してインストールします。
- vSphere Replication サーバ間の接続を再設定します。

- アップグレード後に vSphere Replication Management サービスが開始されない

vSphere Replication をアップグレードすると、 VAMI で vSphere Replication Management (VRM) サービスが 停止と表示され、 仮想マシンの /opt/vmware/hms/logs/hms-configtool.log ファイルに java.net.ConnectException: Connection refused エラー メッセージが記述されます。

この問題は、vPostgreSQL サービスが完全に開始されていないために、組み込みの DB スキーマのアップグレード プロシージャが失敗する場合に発生します。

回避策：

- 仮想アプライアンス コンソールで root ユーザーとしてログインします。

- DB スキーマのアップグレードが開始されます。
3. DB アップグレード プロシージャが完了するのを待ちます。
4. vSphere Replication VAMI で **[構成]** タブに移動して、アプライアンスの SSO 登録を完了します。

● **vSphere Replication アプライアンスのアップグレード後や、証明書または IP の変更後に vSphere Replication の権限が欠落する**

vSphere Replication アプライアンスをアップグレードする場合、または他の何かの理由で vSphere Replication アプライアンスの証明書または IP アドレスが変更する場合、デフォルトの VRM ユーザー ロールに割り当てられた権限が削除されてしまいます。

この問題は vSphere Replication のエクステンションが vCenter Server エクステンション マネージャで登録解除および登録されるたびに発生することが確認されています。

回避策：vSphere Replication アプライアンスのアップグレードまたはその証明書や IP アドレスの変更を行う前に、事前定義済みの VRM ロールを複製して、カスタム ロールを作成します。カスタム ロールに割り当てられている権限は削除されません。

● **アップグレードの後で vSphere Replication の Virtual Appliance Management Interface (VAMI) にアクセスできなくなる**

アップグレード後は vSphere Replication VAMI が変更され、アップグレードの前に使用していたのと同じブラウザ ウィンドウでアクセスできなくなります。

回避策：次のいずれかの操作を行います。

- VAMI を開くのに使用したブラウザを変更します。
- ブラウザを完全に終了してから新しいブラウザ ウィンドウを開いて VAMI に接続します。
- ブラウザのキャッシュをクリアします。
- ブラウザで匿名タブを開きます。

● **アップグレード後に vSphere Replication アプライアンスが vSphere Replication サーバに変わる**

アップグレードの実行前に vSphere Replication アプライアンスの OVF コンテキストを確認しなくてもアップグレード操作が失敗しなかった場合、アップグレードされた vSphere Replication アプライアンスが vSphere Replication Server として表示されます。アップグレードの前に構成したレプリケーションに関するデータは消失しています。

回避策：

- vSphere Replication アプライアンスのアップグレード前のスナップショットがある場合は、そのスナップショットに戻します。詳細は、「[Checking and Restoring the OVF Environment of the vSphere Replication Appliance \(2106709\)](#)」を参照してください。
- vSphere Replication アプライアンスのアップグレード前のスナップショットがない場合は、アップグレードされた vSphere Replication インスタンスをアンインストールして、新規のデプロイを実行してください。詳細は、「[vSphere Replication のインストールとアンインストール](#)」を参照してください。

● **vCenter Server および vSphere Replication のアップグレード後に、vSphere Replication VAMI で SSO を構成すると、次のエラーで失敗する - Bad 終了コード：1**

vCenter Server をバージョン 6.5 に、vSphere Replication をバージョン 6.5 にアップグレードしたら、アプライアンスを vCenter Single Sign-On に登録する必要があります。vSphere Replication VAMI の **[構成]** タブで、SSO 管理者の LookupService アドレスおよび認証情報を入力し、**[サービスを保存して再開]** をクリックします。次のエラー メッセージが表示されます。**Bat 終了コード：1**

この問題は、アップグレードした vCenter Server の IP アドレスまたは証明書が変更されているが、vCenter Server の古い IP アドレスおよび証明書が vSphere Replication Management Server によって OVF 環境に保持されていることが原因で発生します。そのため、vCenter Server の検証に失敗します。

回避策：vSphere Web Client で、vSphere Replication Management サーバ仮想マシンを右クリックし、パワーオフしてからパワーオンします。この操作により、vSphere Replication Management Server 仮想マシンの OVF 環境が強制的に更新されます。

● **vSphere Replication のアップグレード後に Site Recovery Manager をアップグレードできない**

vSphere Replication をバージョン 6.5 にアップグレードすると、vSphere Replication のバージョンが互換性なしとして検出されるため、Site Recovery Manager をアップグレードできません。vCenter の Solutions Manager では vSphere Replication のバージョンがアップグレードされていないと表示されますが、アプライアンスではアップグレードが成功したと報告されます。

回避策：vSphere Replication アプライアンスの vCenter Single Sign-On への登録

1. サポートされるブラウザを使用して、vSphere Replication アプライアンスの VAMI インターフェイスに接続します。
2. **[構成]** タブで SSO 管理者のユーザー名とパスワードを入力します。
- 注：サポートされないブラウザを使用すると、SSO 認証情報のテキスト ボックスが表示されません。

全般

● **ソース仮想マシンで仮想デバイス ノードを変更した後、レプリケーションの再構成が失敗する**

レプリケートされたディスクで仮想デバイス ノード設定を変更してからレプリケーションを再構成すると、次のエラーが表示されてプロセスは失敗します。

リモート サイトでレプリケーション グループ「<VM_ID>」（管理オブジェクト ID：「GID-<group-ID>」）の再構成タスク（タスク「HTID-<hms-task-ID>」）を完了できません。詳細：'vSphere Replication Management Server でランタイム エラーが発生しました。例外の詳細：'VR Server エラー：'(<diskId: 「RDID-<replica-disk-ID>」)のエラー：SQLite エラー 19: UNIQUE 制約が失敗しました: ReplicatedDisk.diskID; 返されたエラー メッセージ: UNIQUE 制約が失敗しました: ReplicatedDisk.diskID; コードが以下に設定されています: 指定された ID のディスクはすでに存在します。; ディスク ID はすでにデータベースに含まれています。; レプリカ ディスク RDID-<replica-disk-ID> (groupID = GID-<group-ID>) をデータベースに追加しています; ディスク RDID-<replica-disk-ID> を追加しています; ディスク情報をデータベースに追加しています.'.'.'.

2. レプリケーションを再構成し、以前に除外したディスクを含めます。

● **レプリケーションの再構成がエラーで失敗する**

レプリケーションからディスクを除外して、再度追加を試行すると、次のエラーが発生して再構成は失敗します。

リモート サイトでレプリケーション グループ「<vm_id>」（管理オブジェクト ID：「GID-<group-id>」）の再構成タスク（タスク「HTID-<hms-task-id>」）を完了できません。詳細：'ディスク ファイル名「<vm_id2>.vmdk」はすでに存在します。

回避策：ディスクを除外した後で、再度追加できるようにするには、RPO よりも長い期間待機します。MPIT を有効にしている場合は、除外されたディスクの参照が含まれているすべてのレプリケーション インスタンスが期限切れになるまで待機する必要があります。または、ターゲット データストアから vmdk ファイルを手動で削除することもできます（vmdk ファイルの名前はエラー メッセージに表示されます）。

● **レプリケーションを行うソース仮想マシンが ESXi 6.7 で実行されている場合、レプリケーションの同期は進行しているように見えるが、レプリケーションのインスタンスが正常に完了しない**

ESXi 6.7 では、実際に送信可能な数よりも多くの要求ログのチャンクがパラレル転送用にスケジューリングされることがあります。このようなホストで実行されている仮想マシンのレプリケーションを行う際に、ターゲット ホストの遅延やネットワークの一時エラーが同時に発生する場合、これによりレプリケーションは、「DiskQueue がいっぱいです」というエラーとともに失敗します。

回避策：

- 1. すべての仮想マシンを別の ESXi ホストに移動します。
- 2. ESXi の詳細設定で HBR.DemandlogTransferMaxNetwork の値を編集し、デフォルトの 64 から 63 に変更します。
- 3. ESXi ホストをメンテナンス モードにします。
- 4. ESXi ホストを再起動します。

● **レプリケーションを行うソース仮想マシンが ESXi 6.7 または ESXi 6.7 U1 で実行されている場合、初期の同期または完全同期の進行が、完了前に停止することがある**

ソース仮想マシンが ESXi 6.7 または ESXi 6.7 U1 で実行されている場合、レプリケーションの同期は進行した状態を維持しますが、レプリケーションの詳細情報内のチェックサムのバイト値は進行しません。パワーオフ、スナップショットの作成、スナップショットに戻る、仮想マシンの移行などの処理は、タイムアウトになるか、「タスクが進行中です」というエラーとともに失敗します。

回避策：

- 1.ESXi の詳細設定で、HBR.ChecksumUseChecksumInfo = 0 と設定して、vSphere Replication のチェックサムを無効にします。
- 2.すべての仮想マシンを移行し、ESXi ホストに移行できなかった仮想マシンをパワーオフします。
- 3.ホストをメンテナンス モードにします。
- 4.ESXi ホストを再起動します。

注：この回避策は、同期プロセスのチェックサム部分を無効にし、割り当て済みのすべてのブロックは、異なるかどうかにかかわらず、リモート サイトに送信されます。この回避策は、シード機能を無効にします。

● **HTML5 ベースの vSphere Client から OVF をデプロイした後に仮想アプライアンスを起動できない**

HTML5 ベースの vSphere Client では、OVF テンプレートのデプロイ ウィザードでの vService 拡張機能の選択をサポートしていません。その結果、仮想アプライアンスが vService 拡張機能を使用し、ユーザーが vSphere Client を使用して OVF ファイルからデプロイすると、デプロイは成功しますが、仮想アプライアンスの起動時に次のエラーが発生します。

「仮想マシン「vSphere_Replication」に、プロバイダにバインドされていない必須の vService 依存関係「vCenter Extension Installation」があります。」

回避策： vService 拡張機能を使用する OVF デプロイで、vSphere Web Client を使用します。

● **Mozilla Firefox ブラウザを使用して、vSphere ユーザー インターフェイスで複製された仮想マシンを右クリックし、[レプリケーションの再構成] を選択すると、Site Recovery ユーザー インターフェイスのポップアップ ウィンドウがブロックされ、通知が表示されない**

デフォルトで、Site Recovery ユーザー インターフェイスは新しいタブで開きます。Mozilla Firefox ブラウザを使用して、vSphere ユーザー インターフェイスで複製された仮想マシンを右クリックし、[レプリケーションの再構成] を選択すると、Site Recovery ユーザー インターフェイスのポップアップ ウィンドウがブロックされ、通知は表示されません。

回避策：Mozilla Firefox の [オプション] メニューで、[コンテンツ] タブを選択し、ポップアップ例外リストに vCenter Server の URL を追加します。

● **Site Recovery のユーザー インターフェイスが使用不能になり、「403 - OK」エラー メッセージが次々と表示される**

Site Recovery のユーザー インターフェイスにデータが表示されず、「403 - Ok」エラーが表示されます。

回避策：

- 1.Site Recovery ユーザー インターフェイスからログアウトして、再度ログインします。
- 2.ブラウザの [前回のセッションの復元] チェックボックスをオフにします。Chrome の場合は、[前回開いていたページを開く] オプションをオフにします。

● **新規に構成された仮想マシン ディスクのシードが選択されている場合に、レプリケーションの再構成に失敗する**

レプリケーションの再構成操作を行っているときに仮想マシン ディスクのレプリケーションが有効になっていて、このディスクのシードが選択されている場合は、レプリケーションの再構成タスクが失敗します。

回避策：レプリケーションに新しいディスクを使用できるようにする場合は、シード ファイルを選択しないでください。シード ファイルを使用する必要がある場合は、この仮想マシンのレプリケーションを停止し、レプリケーションに必要なすべてのディスクを有効にして新しい構成を作成します。

vSphere Replication サービスが開始できるスレッド数の制限に達したために、新しいイベントを処理するためのスレッドを作成できない場合は、次のいずれかが発生する可能性があります。

- vSphere Replication に、ソース サイトおよびターゲット サイトのステータスや個数について一貫性のない情報が表示されます。
- Site Recovery Manager でフェイルオーバー テストに失敗し、システム ログに次のレコードが記録されます。**VR synchronization failed for VRM group ifulgv002a.vSphere Replication Management Server で一般エラーが発生しました。例外の詳細: 'com.vmware.hms.replication.sync.DeltaAbortedException'.**

回避策：vSphere Replication の構成を変更して、スレッド数の上限をなくします。

1. vSphere Replication アプライアンスに root としてログインします。
2. エディタで **/etc/systemd/system.conf** ファイルを開きます。
3. 行 **DefaultTasksMax=512** のコメントを解除して、値を **DefaultTasksMax=infinity** に設定します。
4. ファイルを保存します。
5. vSphere Replication アプライアンスを再起動します。

● **VVOL のターゲット データストアでシードを使用するレプリケーションの構成には成功するが、レプリケーションが Error 状態になる**

レプリケーションでスナップショットを含む仮想マシンをシードとして使用するように構成すると、構成操作は成功しますが、レプリケーションは **Initial Full Sync** の最後で **Error** 状態になります。エラーに関する説明が似ている問題が表示されます。

```
"A replication error occurred at the vSphere Replication Server for replication 'vmname'.Details: 'Error for (datastoreUUID: "vvol:9148a6192d0349de-94149524b5f52bc4"), (diskId: "RDID-fd3ed4de-2356-43c7-a0e2-7bc07a7da012"), (hostId: "host-33"), (pathname: "vmname/vmname.vmdk"), (flags: retrieable): Class: NFC Code: 10; NFC error: NFC_DISKLIB_ERROR (Input/output error); Set error flag: retrieable; Can't write (multiEx) to remote disk; Can't write (multi) to remote disk'."
```

回避策：シードの仮想マシンからスナップショットを削除します。

● **一部の vSphere Replication 操作が失敗するか、または応答不能になる**

多数の vSphere Replication 操作を同時に開始すると、一部がハングすることがあります。また、vSphere Replication アプライアンスが多数の操作の並行処理に多くのメモリを必要とするため、VRMS サイトが応答不能になることもあります。

回避策：

1. vSphere Replication アプライアンスへの SSH を有効にします。
 2. **vcta** サービスを停止します。
service vcta stop
- 注：**このサービスを停止すると、クラウド間とのレプリケーションが中断されます。

● **完全同期中に vSphere Replication が次のエラーで失敗する：vSphere Replication Server でレプリケーション エラーが発生しました**

完全同期中に、次のエラーが発生して vSphere Replication が失敗することがあります。

```
A replication error occurred at the vSphere Replication Server for replication <group_name>.Details: 'Error for (datastoreUUID: "..."), (diskId: "..."), (hostId: "..."), (pathname: "..."), (flags: retrieable, pick-new-host, nfc-no-memory): Class: NFC Code: 5; NFC error: NFC_NO_MEMORY; Set error flag: nfc-no-memory; Code set to: Host unable to process request.; Set error flag: retrieable; Set error flag: pick-new-host; Can't write (single) to remote disk'.
```

通常、このエラーは一時的なものであり、しばらくすると操作は成功します。

● **vCenter Server の SSL 証明書を置き換えると、vSphere Replication で証明書検証エラーが発生する。**

vCenter Server システムの SSL 証明書を置き換えると、vSphere Replication が vCenter Server への接続を試みるときに接続エラーが発生します。

回避策：vCenter Server 証明書の更新方法、および vSphere Replication などのソリューションが機能し続けるようにするための方法の詳細については、<http://kb.vmware.com/kb/2109074> を参照してください。

● **データ同期が失敗してソース vSphere Replication Management Server のログ ファイルにエラー DeltaAbortedException が記述される**

データ同期中にご使用の環境で接続の問題が発生した場合、以下の問題が発生していることがあります。

- レプリケーション グループの同期が失敗して、ソース サイトの vSphere Replication Management Server の **hms<n>.log** ファイルに次のエラー メッセージが記述されます：
DeltaAbortedException
- Site Recovery Manager ではレプリケーション グループ同期が以下のエラー メッセージで失敗します。
VRM グループ <group_name> の VR 同期が失敗しました。vSphere Replication Management Server で一般エラーが発生しました。例外の詳細: 'com.vmware.hms.replication.sync.DeltaAbortedException'.

回避策：環境内の接続の問題を解決してから処理を続けます。

● **初期構成タスクがエラー InvalidArgument で失敗する**

UUID のないディスクを含む仮想マシンのレプリケーションを構成する場合、初期構成中に vSphere Replication はディスクに UUID を割り当てます。ただし、ディスクに親ディスクがある場合（たとえば、事前のスナップショットなど）、vSphere Replication ディスクに UUID を割り当てできず、初期構成タスクがエラー **InvalidArgument** で失敗します。

- **最新の同期からの累積差分が大量にある場合に複数のレプリケーションを同時にリカバリすると、「最新の変更の同期」を行うフェイルオーバーが SocketTimeoutException で失敗する**

同じネットワークに大量のレプリケーション トラフィックがあると、vSphere Replication Management Server で、予定されている応答が vCenter リバース プロキシを介して受信されない可能性があります。一部のレプリケーション管理または監視操作が次のエラー メッセージで失敗する場合があります。

'com.vmware.vim.vmmomi.client.exception.ConnectionException : java.net.SocketTimeoutException : 読み込みのタイムアウト'

回避策：vCenter と vSphere Replication Management Server 間の管理通信が大量のレプリケーション トラフィックの影響を受けないように、vSphere Replication トラフィックのネットワーク トラフィック分離を構成します。「[vSphere Replication のネットワーク トラフィックの分離](#)」を参照してください。

- **ターゲット フォルダにある仮想マシンがリカバリ中に上書きされる**

レプリケートされた仮想マシンと同じ名前の登録済み仮想マシンがターゲット フォルダにある場合、その登録済み仮想マシンはリカバリ中に上書きされます。リカバリ ウィザードを開始すると、vSphere Replication によってターゲット フォルダがチェックされ、上書き操作を確認するためのダイアログ ボックスが表示されます。稀に、ターゲット チェックの完了後、ウィザードがまだ開いたままの状態のときに、仮想マシンがターゲット フォルダに登録されることがあります。このような場合、ターゲット フォルダにコピーされた仮想マシンは、通知されることなく上書きされます。

回避策：なし。

- **ターゲット サイトで vSphere Replication サーバの IP アドレスを変更すると、レプリケーションのステータスが [無効 (RPO 違反)] になる**

ターゲット サイトで vSphere Replication サーバの IP アドレスを変更すると、このサイトへのすべてのレプリケーションのステータスが [無効 (RPO 違反)] になります。この問題は、IP アドレスが変更されたときに、ソース サイトのレプリケーションが自動的に再構成されていないことが原因で発生します。

回避策：ターゲット vSphere Replication サーバの新しい IP アドレスがソース ホストで使用されるように、すべてのレプリケーションを再構成します。

- **初期完全同期中に一時的にエラー状態になる**

初期同期中に、同期の状態が一時的に [エラー] になってから正常に戻るということが複数回繰り返される場合があります。このエラー状態は、ターゲット サイトのリソース不足を示している可能性があります。同期操作の IO ワークロードがターゲット ホストで処理できる負荷よりも高い場合、レプリケーションの状態が [エラー] に変わります。IO ワークロードが減少すると、エラーが表示されなくなります。

回避策：レプリケーション ソース仮想マシンが実行されている各 ESXi ホスト上の **HBR.TransferMaxContExtents** と呼ばれるホスト構成オプションの値を減らします。デフォルト値は 8 です。この値を小さくすると、1 回の同期更新中に送信されるデータ ブロック サイズは減少しますが、初期完全同期の期間は長くなります。初期完全同期が完了したら、最大限の RPO パフォーマンスを得られるように値をデフォルト (8) に戻します。差分同期中に一時的なエラーが継続的に表示される場合、変更された多くのブロックが各差分同期で転送されていて、ターゲット サイトのホストが IO ワークロードに対応できていない可能性があります。このような場合は、**HBR.TransferMaxContExtents** 構成オプションの値を低くします。

または、セカンダリ サイトにホストを追加することもできます。

- **VRM 管理者ロールまたは VRM 仮想マシン レプリケーション ロールが割り当てられているユーザーがレプリケーションの構成ウィザードにアクセスできない**

事前定義済みの VRM 管理者ロールまたは VRM 仮想マシン レプリケーション ロールが割り当てられているユーザーが Site Recovery のユーザー インターフェイスにログインし、レプリケーションを構成しようとしても、レプリケーションの構成ウィザードが起動しません。

回避策：デフォルト ロールのクローンを作成し、**プロファイル駆動型ストレージ -> プロファイル駆動型ストレージ ビュー**権限を追加して、クローン作成されたロールをユーザーに割り当てます。

- **ゲスト OS で静止がサポートされていても、パワーオフされたレプリケーション ソース仮想マシンのレプリケーションの構成ウィザードで、静止を有効にするオプションが無効になっている**

Linux ソースと Windows ソースのどちらの場合も、[静止を有効にする] オプションは、ゲスト OS の情報に基づいて有効になります。仮想マシンが一度もパワーオンされていない場合、ゲスト OS の情報を使用できないため、ESXi ホストで常に、静止がサポートされていないことが報告されます。

回避策：レプリケーションを構成する前に、レプリケーション ソース仮想マシンが少なくとも 1 回はパワーオンされていることを確認します。

- **vCenter Server 証明書の変更後、vSphere Replication サービスがアクセス不能になる**

vCenter Server 証明書を変更すると、vSphere Replication にはアクセス不能になります。

回避策：「[vCenter Server 証明書の変更後、vSphere Replication がアクセス不能になる](#)」を参照してください。

- **リカバリに失敗すると vSphere Replication Management Server (VRMS) がターゲットの vCenter Server の部分的にリカバリした仮想マシンをリークすることがある**

リカバリ中にリカバリした仮想マシンをターゲットの vCenter Server に登録した直後に、VRMS が停止することがまれにあります。レプリケーションの詳細パネルに **VRM Server was unable to complete the operation.** という最新のリカバリ エラーが表示されます。VRMS を再起動すると、部分的にリカバリした仮想マシンのファイルがクリーンアップされます。ターゲットの vCenter Server から仮想マシンを登録解除できないこともあります。以降のリカバリでは、選択した仮想マシン フォルダにすでに同じ名前のエンティティが含まれているというエラーがリカバリ ウィザードに表示されます。

回避策：仮想マシンをターゲットの vCenter Server から手動で削除しますが、ディスクはレプリカのプレースホルダ ファイルを参照したままにします。

- **複数の仮想マシンのレプリケーション中に、vSphere Replication サーバはこれ以上 VRMS 接続を受け入れないが、仮想マシンのレプリケートは続行するという状態になることがある**

回避策：vSphere Replication サーバを再起動します。

- **vSphere Replication 操作が未認証エラーにより失敗する**

あるサイトで仮想マシン上の vSphere Replication の構成などの操作を開始してから、別のサイトで vCenter Server と vSphere Replication アプライアンスを再起動した場合、vSphere Replication 操作がエラー「VRM サーバの一般エラー。」で失敗する可能性があります。このドキュメントでトラブルシューティング情報があるかどうかをチェックしてください。詳細な例外は：「com.vmware.vim.binding.vim.fault.NotAuthenticated」です。この問題は、vSphere Replication サーバのキャッシュ内に、vCenter Server と vSphere Replication アプライアンスを再起動する前の接続セッションが保持されることが原因で発生します。

回避策：vSphere Web Client からログアウトして再度ログインすることで、vSphere Replication の接続キャッシュをクリアします。

● **vSphere Replication Management Server の操作がエラー「...UnmarshalException」で失敗する**

vSphere Replication Management Server の負荷が重い場合、または一時的なネットワーク エラーが発生した場合、通信レイヤーのエラーが原因で操作が UnmarshalException により失敗する可能性があります。

回避策：失敗した操作を再度実行してください。

● **アップデートのインストール時に VAMI が応答しない場合がある**

vSphere Replication をアップグレードするときに、VAMI が応答しないため、アップデートが正常にインストールされた後でも「アップデートのインストール中」というステータス メッセージが表示されたままになる場合があります。

回避策：ブラウザで VAMI UI を更新するか、新しいタブで開きます。

● **vSphere Replication でリカバリされた仮想マシンが vCenter Server でパワーオンしない**

仮想マシンでのリカバリの実行に vSphere Replication を使用した場合、失敗してレプリケーションのステータスが「リカバリ済み」以外になります。仮想マシンは vCenter インベントリで登録されていますが、それをパワーオンしようとすると、次のエラー メッセージで失敗します：「ファイル [datastorename] path/vmname.vmx が見つかりませんでした。」vSphere Replication リカバリ ワークフローの一部としての仮想マシンの登録が vCenter Server で成功しても、一時的なネットワーク エラーによって応答が vSphere Replication Management Server に到達しない可能性があります。vSphere Replication によってレプリケーション イメージが戻され、仮想マシンの登録エラーが原因でリカバリ タスクが失敗したことが報告されます。別のリカバリを開始した場合、失敗して同じ名前前の仮想マシンがすでに vCenter Server に登録されていることを示すメッセージが表示されます。

回避策：部分的にリカバリされた仮想マシンを vCenter Server インベントリから削除します。ファイルをディスクから削除しないでください。リカバリを再度実行します。

● **レプリケーション トラフィックの量が多いと vSphere Replication の操作に失敗する**

vSphere Replication の操作が java.net.UnknownHostException のエラーで失敗することがあります。これらのエラーは、ネットワークの輻輳のために DNS 要求がドロップされることが原因で発生します。

回避策：vSphere Replication アプライアンスにトラフィック シェーピング、サービス品質、または DNS を構成することによって、管理トラフィックがドロップしないようにネットワークを構成します。解決方法の 1 つに、vSphere Replication アプライアンスのネットワーク アドレス キャッシュのポリシーを修正することが考えられます。

1. vSphere Replication アプライアンスに root としてログインします。
2. エディタでファイル /usr/java/jre1.7.0_72/lib/security/java.security を開きます。
3. networkaddress.cache.ttl の行のコメントを解除し、その値を 86,400 秒（24 時間）以上、または初期完全同期が完了するのに必要な最長時間に設定します。
4. ファイルを保存し、vSphere Replication アプライアンスを再起動します。
5. 残りのすべての vSphere Replication アプライアンスに対して同じ手順を繰り返します。

vCenter Server へのレプリケーション

● **Storage DRS クラスタがレプリケーションのターゲットとして選択されている場合は、レプリケーションの再構成に失敗する**

レプリケーションを再構成して、レプリケーションを Storage DRS クラスタからデータストアに移動しようとすると、再構成に失敗します。

回避策：レプリケーションを削除して、目的のデータストアに対する新しいレプリケーションを構成します。

● **カスタム定義されたユーザーおよびロールを vSphere Replication で使用できない**

両方のサイトで必要なすべての VRM 権限がカスタム ユーザーに割り当てられていても、そのカスタム ユーザーを使用してレプリケーションを構成することはできません。レプリケーションの構成ウィザードの [ターゲットの場所] ページに「この操作の実行権限が拒否されました」というエラー メッセージが表示されます。

回避策：なし。すべての vSphere Replication 操作は、両方のサイトで、SSO 管理者ユーザーを使用して実行する必要があります。

● **複数の特定時点でのインスタンスを有効にしてリカバリされた仮想マシンは、以前のスナップショットに戻してから再度最新のスナップショットに戻すと、最新のスナップショットに接続されたディスクが失われる場合がある**

特定の時点のインスタンスを有効にした仮想マシンをリカバリして未解決のディスクを接続した場合、ディスクは最新のスナップショットに接続されます。以前のスナップショットに戻してから最新のスナップショットに戻すと、接続されたディスクは使用できなくなります。

回避策：仮想マシンの設定を編集して、必要なディスクを既存のハード ディスクとして追加します。

● **ターゲット vSphere Replication サーバが使用できないときに、vSphere Replication で vSphere Web Client でのエラーが表示されない**

ターゲット vSphere Replication サーバがパワーオフされているかネットワーク接続に問題があることが原因で使えず、レプリケーションが初期の完全同期状態の場合、vSphere Replication によってターゲット vCenter Server の Web Client で問題が報告されません。代わりに、vCenter Server のイベントが表示され、ステータスが切断状態になります。

回避策：ターゲットの vSphere Replication サーバが現在使用可能かどうかを確認します。または、ターゲット vCenter Server で「VR サーバが切断されました」イベントのアラームを設定します。

3. **OK** をクリックします。
- **クラウド サイトでのリカバリ中にディスクが自動的に統合されない**

MPIT 機能が有効なクラウドへのレプリケーションを構成して、レプリケートされた仮想マシンをクラウド サイトでリカバリする場合、保持されたインスタンスがリカバリ中に統合されません。仕様では、リカバリ処理速度を上げるためにレプリケーション インスタンスは統合されません。リカバリされた仮想マシンの未統合のディスクによって、以下のパフォーマンスの問題が発生することがあります。

- リカバリされた仮想マシンの実行速度が本来の速度よりも遅くなる。
- リカバリされた仮想マシンでより多くのストレージ リソースが要求される。

回避策：vCloud Air インターフェイスを使用して、リカバリされた仮想マシンのディスクを統合します。

- **クラウドへの発信レプリケーションの状態が [無効] のままになる**

デフォルトでは、vSphere Replication アプライアンスをパワーオンすると、アプライアンスがデプロイされた vCenter Server インベントリにあるすべてのサポートされた ESXi ホストに、vSphere Installation Bundle (VIB) がインストールされます。VIB では、TCP ポート 10000 から 10010 を送信トラフィック用に開く、ファイアウォール ルール Replication-to-Cloud Traffic が作成されます。しかし、VIB ファイルの自動インストールが環境内のネットワークの問題のために失敗することがあります。ファイアウォール ルールがソース ESXi ホストにないときは、クラウドへの発信レプリケーションが **[無効]** 状態のままになります。

回避策：クラウド レプリケーションのソース仮想マシンをホストする各 ESXi インスタンスに vSphere Replication VIB ファイルをインストールします。

1. ESXi ホストのファイアウォールを一時的に無効にします。
2. ESXi サーバへの SSH 接続を確立します。
3. 次のコマンドを実行します。

```
$ esxcli software vib install -v https://VR_APPLIANCE_IP:8043/vib/vr2c-firewall.vib
```

4. ESXi ホストのファイアウォールを有効にします。

- **次のエラーで計画移行または同期が失敗する：vSphere Replication Server でレプリケーション エラーが発生しました**

計画移行中にインフラストラクチャ（ホスト、ネットワーク、またはストレージ）に大きな負荷がかかっている場合、計画移行を実行すると、次のいずれかのエラーが発生して失敗することがあります。

- **レプリケーション <group_name> の vSphere Replication サーバでレプリケーション エラーが発生しました。Details: 'Error for (datastoreUUID: "..."), (diskId: "..."), (hostId: "..."), (pathname: "..."), (flags: retrieable): Class: NFC Code: 10; NFC error: The operation completed successfully; Set error flag: retrieable; ...'**
- **レプリケーション <group_name> の vSphere Replication サーバでレプリケーション エラーが発生しました。Details: 'Error for (datastoreUUID: "..."), (diskId: "..."), (hostId: "..."), (pathname: "..."), (flags: retrieable, pick-new-host, nfc-no-memory): Class: NFC Code: 5; NFC error: NFC_NO_MEMORY; Set error flag: nfc-no-memory; Code set to: Host unable to process request.; Set error flag: retrieable; Set error flag: pick-new-host; Can't write (single) to remote disk'.**

通常、これらのエラーは一時的なものであり、実行し直すと操作は成功します。

回避策：使用環境でこのエラーが頻繁に発生する場合は、vSphere Replication Management Server (VRMS) でレプリケーション同期の許容期間を長くすることができます。

1. VRMS アプライアンスに root ユーザーとしてログインし、`/opt/vmware/hms/conf/` に移動します。
2. `hms-configuration.xml` ファイルを編集用を開いて、`hms-sync-replication-error-toleration-period` プロパティの値を **300000** に設定します。
3. 計画移行タスクを再実行します。

- **vCloud Air のシード vApp 上のすべての操作が無効になる**

クラウドへのレプリケーションを構成して vCloud Air インベントリから vApp を選択してレプリケーション シードとして使用すると、シード vApp 上のすべての操作が無効になります。

回避策：なし。レプリケーション シードは仮想マシンとして動作しません。シード vApp は 1 つのレプリケーションにしか使用できません。



企業情報

VMware について

エグゼクティブ マネジメント チーム

— 85 —

投資家向け情報

お客様事例

ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン

環境と社会への貢献、ガバナンス

VMware の AI

採用情報

ブログ

コミュニティ

買収により合併した企業

オフィス所在地

VMware Cloud Trust Center

COVID-19 関連リソース

サポート

VMware Customer Connect

サポート ポリシー


製品ドキュメント

互換性ガイド

利用条件

ハンズオン ラボと製品のご試用


 Twitter


 YouTube

 Facebook

 Instagram

 Blog

 VMware User Group

 お問い合わせ

[アクセシビリティ](#)

[商標](#)

[用語集](#)

[ヘルプ](#)

[フィードバック](#)